愛有

31号

発行
福岡市立
福岡女子高等学校
友修会

印刷
松古堂印刷㈱

友修会入会式

～育む女子力 花咲け未来へ～

梅の香、香る春日和の2月17日、令和3年度の友修会入会式を行いました。

新型コロナ感染拡大の禍中、時間短縮で無事、新会員310人を迎える事が出来ました。

山田校長先生は挨拶の中でご自身の経験を通し、人との繋がりの大切さを話され同窓生としての自覚を促されました。

江藤会長は歓迎の意を述べると共に新会員への期待と激励の言葉を贈りました。

生徒代表の宮﨑みのりさんは充実した学生生活を振り返りながら最後に、「これからは私達も母校と同窓会を繋ぐ架け橋になりたい」と心強く挨拶しました。

旅立つとき

卒業生代表　宮﨑　みのり

梅の蕾もようやくほころび、春の気配が感じられる頃となりました。さわやかな春の風を受け、この福岡女子高校に入学した3年前が、つい昨日のことのように感じられます。

私達310名は沢山の思い出を胸に卒業します。

初めてみんなで行った能古島遠足、まだ知らない者同士で、アイランドパークまでの道はドキドキしながら歩いたものです。しかし帰り道はみんな笑顔、クラスメートの笑顔を沢山見たことをよく憶えています。

1学年の終わる頃から新型コロナウイルスの影響により、思うように学校生活を送れない日々が続きました。それでも今、高校生活を振り返って楽しく過ごすことができたと思えるのは、いつも一緒にいてくれた友人の存在、先生方の温かいご指導、そして先輩方のご尽力のおかげです。本当にありがとうございます。

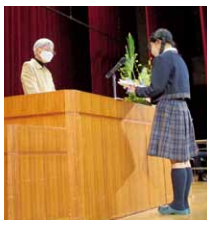
体育祭や文化祭はそれぞれの学科の持ち味を生かした個性あふれる発表ばかりで、この学校の一員でよかったと本当に思いました。

これから、私達はそれぞれの選んだ道を歩んでいきます。未来がどのような世界になっていくのか誰にもわかりません。新しい体験に辛さを噛みしめながら、涙を流しながら、そして明るく笑いながら自分達の生活を築いていきます。

さまざまな決断を迫られることもあるでしょう。そんな時こそ、この福女で得た仲間との思い出や経験を武器に、人生を豊かに送っていきます。

できない理由を探す人にはなりません。まずは、チャレンジしてみる、実行できる人になります。

卒業後は、誇り高き友修会の一員として先輩方と共に、母校と友修会を繋ぐ架け橋となります。福岡女子高校がさらに活気あふれる学校へと発展していくよう、母校を盛りあげていくことをここに誓います。



未来へむかって一歩ずつ

六代会長　江藤　淑子

全国の友修会会員の皆さま、おかわりなくおすごしでしょうか。

新型コロナウイルス感染症はなかなか収束せず、この2年間同じことの繰り返しという既視感にとらわれ、時系列が混乱しています。

在校生もオンライン授業や、体育祭・文化祭等の縮小など、不自由な学校生活を強いられています。そのような中でも、部活動ではソフトテニス部・バスケット部・囲碁部・放送部・漫画研究部の皆さんが県大会や九州大会、全国大会への出場を果たしました。また、ブラスバンド部も定期演奏会を行うなど、在校生はコロナに負けず元気に活動しています。その姿をみると「私もがんばろう」と、背筋が伸びる思いです。

今年2月『友修会入会式』が行われ、新しい会員310人を迎えることができました。

新会員代表の力強い決意表明をこの紙面に掲載していますので、ぜひお読みください。入会式で読み上げられたとき、私は「友修会はこれからも、このようなチャレンジ精神で活動していかなくてはいけない……」と気づかされました。

いま、社会全体が重苦しい空気に包まれていますが、このような状況が未来永劫に続くはずがありません。

2025（令和7）年母校は創立100周年を迎えます。友修会も母校とともに限りなき未来にむかって一歩ずつ進んでいきましょう。

最後になりましたが、会員の皆さまにはコロナ禍でも日々の暮らしを大切にし、心おだやかにお過ごしくださることを願っています。

先生お元気ですか？

祝♡令和三年秋の叙勲にて『瑞宝双光章』を受章

感謝が募る日々

元校長　本多　常忠

友修会の皆様お元気ですか。

私は、平成十八年から二十三年の五年間、勤めさせていただきました。今年が六回目の年男七十二歳になりました。この年まで、友人・知人・家族など周りの方々に支えられてきたことへの感謝の思いを日々募らせています。

福女へ赴任した当時は、第二次福岡市立高等学校活性化検討委員会が設置され、女子高の存続を含めた検討がはじまった時でした。

この崖っぷちから押し寄せる厳しい嵐を押し返そうと、先生方と知恵を絞りアイデアを出し合い、意思を合わせて日々一歩前へ歩みを進め汗を流した良き時期でした。

その実践が実り、市民や中学校・保護者からの信頼の波紋が広がり、今日まで健全に歩み続けていることを、うれしく思います。

友修会の皆様からの温かい励ましと期待の言葉は、大きな力と勇気づけになりました。

英語弁論大会へのトロフィーの提供など、数々のご支援は本当にありがたかったです。母校に対する熱い思いをひしひしと感じていました。

さて私の近況ですが、福女で始めた「オカリナ」が活動範囲を広げています。公民館や高齢者福祉施設、町内のサロンなど方々から声をかけられ、友人と二人で演奏とトークを繰り広げています。

当時の在校生は、集会の度に下手な演奏を聞かされ迷惑でしたね。皆さんが我慢して聴いてくれたおかげで続けられ、少しはうまくなりましたよ。

今は引っ張りだこ!?

退職してから始めたゴルフも、月四回はコンペに出ています。練習は毎日継続中。

その他、週二回のゴルフ場ボランティア活動や、釣りに登山にとポジティブにはしゃいでいる元気印の老人です。

福岡女子高校はあと三年で百周年を迎えます。よかった！万歳！

その時は、元気で会いましょう。

〝為せば成る〟の精神は健在です。

福joy集会の時、私がつらそうに話した後、生徒が「校長先生 笑顔でいてください」とこの似顔絵A4サイズを校長室にもって来てくれたんです。この絵は私の宝です。

◆友修会事務局

〒819-0013 福岡市西区愛宕浜3丁目2番2号
福岡市立 福岡女子高等学校セミナーハウス内
TEL／FAX 092(882)1858
常駐日／火・水・木曜日　9時～15時
◆関東支部・関西支部もあります

友修会専用ホームページを開設
https://yushukai.jp
スマホの方はこちら▶
住所や名前の変更の際は連絡してください。

令和4年度 友修会総会

日時　令和4年6月19日(日)
受付10:30　開会11:00

場所　オリエンタルホテル福岡博多ステーション
福岡市博多区博多駅中央街4-23

参加費　無料
※コロナ禍のため、懇親会はおこないません。
なお、状況により急きょ中止する場合があります。

令和3年度　卒業生進路状況

4年制大学	68人
短期大学	64人
専門学校	116人
就職	31人

令和4年2月28日現在

黒い瞳の輝きが

～校舎つれづれ～

元事務長　青木　晃

私が女子高、当時の第一高等女学校に就任したのは昭和二十二年の六月、場所は博多区の奈良屋小学校の校舎の一部であった。

迷える子羊どこへ行く

その一年あまり前の冬の夜中、西公園に住んでいた私は消防署のけたたましいサイレンと、すぐ左前方の黒煙に驚き、一面草原の平和台を走って炎上する校舎を見下ろした。

赤坂校舎

これが私と第一高等女学校の校舎との、初めての奇妙な出会いであった。その翌年から二十年、その学校に勤めることになろうとは、神ならぬ身の知る由もなかった。

その後、西日本新聞に「迷える子羊どこへ行く」という見出しでこの学校のことが掲載された。創立以来、校舎は天神の福岡女子高等小学校に間借り、昭和になって長浜の実業青年学校（現舞鶴小学校）に間借、十六年にやっと赤坂に自分の校舎を持つことが出来たものの、太平洋戦争のため軍隊に接収されて拓殖専門学校（現千代中学校）に間借、終戦で復帰した赤坂の校舎も安住の地でなく、わずか一ヵ月後の二月十五日の夜、火災で全焼、またまた奈良屋小学校に間借……正しく「迷える子羊」であった。

「早く本来の校舎に戻りたい」それは関係者全ての願いで、父兄会、同窓会、学校が一体となって「復興建設委員会」が発足し、市・県・文部省への陳情が繰り返された。

取り敢えず「四教室建設、被服室と調理室は学校が建設する」方針が打ち出された。これはPTA総会でも承認され、特別教室建設資金として、生徒一人当たり千円の寄付となった。

終戦の混乱期、生活苦、誰もが食べることで精一杯の時代。特に食糧難、米も野菜も魚も、口に入るものは全て配給で、何一つ自由に手に入らない。今の飽食の時代には考えられない状況であった。その中で父兄は歯を食いしばって子供を就学させていた。当時、一教師であった私の初任給は五百円、いかにも千円は大金であった。

同窓会役員の方々も約三千人の卒業生や、その他への募金に奔走した。学校でも夏休みに劇場を借り、役者を呼んで演劇を開いて資金を作った。生徒たちは焼跡のガラスの破片を材料に、絵を描いて風鈴を作り、炎熱の中リヤカーを引いて繁華街で売ったり、学校で仕入れた生活物資を近隣に売って資金を集めた。関係者の苦労と努力が実り、その秋、赤坂の地に四教室建築の工事が進み、一同歓喜に包まれた。

今日の繁栄を築いたもの

私は昭和二十二年から四十二年まで勤めたが、それは校舎建築に追い回された二十年であった。

今、海に面した新校舎の前に立ってみると、かつて「迷える子羊」と言われてから約五十年、その歳月の「重み」を、私はしっかりと身に感じた。私がはじめて出会った校舎の炎を、この様に変身させたのは、いったい何なのか。

奈良屋の仮校舎で「校舎復興」へ父兄も卒業生も職員も生徒も一体となって力を結集し金を集めた。生徒たちは自分たちの発想で、自分たちの手で風鈴作りに取り組み、一つの目的に皆で心を合わせ、お互い教えあい、助け合い励ましあう姿は、実に爽快で尊いものであった。その時私は、にこやかに談笑する少女たちの、純な黒い瞳の輝きを見た。

今日の繁栄は、あの時代の少女たちが作り上げたものだと私は心底から思った。

今の生徒たちは実に幸せだ。立派な校舎で、豊富な教材で学べるのである。その幸せは、かつて幾多の先輩たちが、長い間不自由を忍び、悲しみや苦しみに耐えぬいて、営々としてつみかさねてきた努力の上に築かれたものであることを忘れないでほしい。

新しい校舎で、立派な新しい校風を創り上げ、次の後輩たちに引き継がれ、さらに代々、時代とともに一そう磨き上げられていくことに、私は大きな期待を抱いている。

青木　晃（元）事務長を偲び、70周年記念の寄稿より一部抜粋して掲載しています。

あのときの私＆いまの私

先生への感謝と共に

令和3年
食物調理科卒
村上　唯音

福女を卒業して早や一年が経ちました。

私にとって、この一年は手探りの一年でした。まだまだコロナウィルスの影響による規制が多くあり、新しく出会った人とも関わることが少なく、打ち解けるまでに時間がかかりました。学校での講義は、高校よりも理解しにくいもので、ペースも早く、大学生活に馴染むことに苦労しました。そんな中、私の支えとなったのは、福女の友人でした。

会うことはほとんどないけれど、たまに連絡をとって話していると、昨日学校で会っていたかのように話せるのに、不思議なもので、みんな高校の時よりも大人に感じます。

それぞれが仕事や学校など、新しい環境で私と同じように手探りながら頑張っていて、一人じゃないと思えて心強かったです。

私は今、家庭科教員を目指して大学で学んでいます。その中で気づいたことがあります。それは、生徒として先生方と接している時には気づかなかった、先生という仕事が沢山あるということです。

授業をして、放課後には私たち生徒と会話するだけでなく、学校を運営していく上で、行事や変化していく社会に対応した授業構成・指導など、山のように仕事があることを知り大変だなと思いました。それでも、私の記憶の中の福女の先生達は、いつでも温かくて一人一人に向き合ってくれる、大変さを感じさせない、先生という「職のプロフェッショナル」だなと思い、本当に感謝と尊敬の気持ちで一杯です。

今の私の目標は、三年後に自分の納得いく知識と技術を習得して社会人になることです。そのために今できる目の前のことを全力で取り組んでいきたいです。

ウィズコロナ

～大変で大切な高校時代～

令和3年
食物調理科卒
青柳　瑞希

三月一日。いつも通り、仕事をしながら「今日は卒業式かぁ」と、高校時代のことを考えました。三年間の高校生活は、長いようで、あっという間だったと改めて思います。

調理実習で、お腹いっぱいになった後に猛ダッシュで体育に向かったり、文化祭や体育祭の準備のために遅くまで学校に残った事、休み時間のちょっとした会話など……。たくさんの出来事を思い出すと、そこには一緒に笑って泣いて共に過ごしたクラスメイトがいて、どんな時も私たちを支えてくださった先生方がいらっしゃいました。三年間ありがとうございます。

最後の一年はコロナウィルスの影響で、叶わなかった行事があり悔しい思いをしたり、今までにはない形での学校生活に、大変なこともありました。

しかし、大変だったからこそ、毎日を楽しく過ごすことを考え、濃い一年になったのではないかと思います。

高校生の時のインターンシップがきっかけで、今の接客業の仕事に就きました。食物調理科での勉強も、生徒会での活動も、仕事の上で色々と役に立つなと感じます。

社会人になって四月で二年目。マスク越しでも伝わる笑顔を忘れず、お客様との『一期一会』を大切に、これからも頑張ります。

十年後。あの時の、あのメンバーと先生で集まって、お酒を飲みながらお喋りしているのかなぁ……なんて考えました♪女子高サイコー!!

編集後記

コロナ禍が騒がれ始めてから3年目を迎えました。

世界で様々な対策がとられ、ワクチンの開発で終息かと思えば、新型に振り回される日々。同窓生のみなさまにはお変わりございませんでしたか。

「愛有31号」をお届けいたします。

思えば、95周年の総会の年に、新型コロナの蔓延で総会が中止になり、悔しい思いをしました。昨年も何とか総会をと、役員・年次で奮闘しましたが中止に追い込まれ・・・

しかし福女魂は負けません。

友修会は創意工夫を重ね、ウィズコロナ・アフターコロナを目指し、活動をしています。次回の総会開催に向けて会員の皆さまのご助力をお願いします。

また笑顔で会える日を。